

平成 28 年度 品川区総合戦略推進委員会
議 事 概 要

日 時：平成 29 年 3 月 28 日（火）10:00～11:30

場 所：品川区役所 第二庁舎 5 階 253 会議室

<議事次第>

1. 開会
2. 委員委嘱について
3. 委員紹介
4. 委員長挨拶

■委員長

- ・昨年 12 月の「品川区総合戦略策定委員会」の答申から約 1 年が経過し、各施策の実績値も出つつある。策定当時の議論を振り返りながら、重要なポイントである KPI（重要業績評価指標）の見直しをするかどうかも含めて議論し、必要に応じて見直しを行っていきたい。
- ・より推進しやすい計画となるよう議論を進めていきたいので、皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい。

5. 委員会運営

- *事務局より、資料 2（委員会の公開基準案）について説明

■委員長

- ・事務局から説明のあった公開基準、傍聴に関する取扱い等について、ご意見はないか。
→ 質問・意見等なし。
- ・今後、この方針に沿って委員会を運営していくこととする。

6. 品川区総合戦略の取組状況について

7. 地方創生交付金に係る事業実施結果報告について

- *事務局より、資料 3（品川区総合戦略の取組状況）および資料 4（地方創生交付金の事業実施結果報告）について説明

■委員

- ・「すくすく赤ちゃん訪問事業の推進」について、KPI の家庭訪問率は若干低下しているものの、訪問数自体は増えているとの説明があった。品川区では出生数が増えており、また今後も増えていくと見込まれる中で、訪問する側の体制整備をどうしていくか。

■事務局

- ・訪問率が若干低下した一方、平成 25 年度～27 年度の推移を見ると、出生数が 3,566 人→3,470 人→3,706 人であったのに対し、訪問数は 2,810 人→2,879 人→3,018 人と増加傾向にある。
- ・近年、想定以上に出生者数が増加し、今後も増加していく中で、区の訪問体制が現状のままで足りるのかどうかについては、所管部局において検証していく必要があると考えている。

■委員

- ・訪問者は具体的にどのような人か。

■事務局

- ・保健師や助産師のほか、児童センターの職員が民生児童委員等の協力を得て訪問している。

■委員

- ・今後、KPI の見直しという議論が出てくると思うが、予算や職員の増加等により、KPI の弾力性がある（目標の修正が行いやすい）施策と、そうでない施策との違いが出てくる。
- ・その観点から見ると、「すくすく赤ちゃん訪問事業」については、弾力性がある施策ではないかと感じている。

■委員

- ・事務局の説明では、ここ数年の出生数に年度ごとに増減が見られるとのことであった。
- ・出生数に応じた訪問体制を考える必要があるので、人口推移の原因分析も重要と考える。

■事務局

- ・再開発が進んでいる勝島などの湾岸エリアでは、間違いなく人口が増加すると見込まれる。今後、人口推計自体の見直しも含めて検討していきたい。

■事務局

- ・KPI は、本来、アウトカム指標とすることが基本だが、目標設定においてアウトプット指標とした施策もある。これまで各所管が出していなかった数値目標を我々が引き出して、まずはこれを目標に取り組んでいこう、ということで KPI を設定した施策も多い。
- ・「すくすく赤ちゃん訪問事業」のように、頑張って「訪問数」を増やしても母数（出生数）が増えたために「訪問率」は下がるなどの施策もあるが、今すぐに KPI を変更するタイミングではないと思っている。ただし、改善の余地があるかどうか等は、きちんと検証していきたい。

■事務局

- ・すくすく赤ちゃん訪問を行う前に、区から各家庭に電話をかけているが、母親が「訪問は不要」と答えるケースも一定程度ある。そうした回答の大小も、毎年度の訪問数や訪問率に数%程度の影響がある。

■委員

- ・場合によっては、児童虐待やネグレクトのケースもあると思う。現場としてどこまで踏み込んでいくべきかは、やはり難しい判断になるのか。

■事務局

- ・品川区としては、訪問事業だけでなく、保健センターや児童センターでの面談・相談の機会も増やしている。家庭訪問が100%となるのが望ましいというスタンスに変わりはないが、各家庭のニーズ・状況も踏まえ、家庭訪問以外でも相談できる場所や機会を増やしていくことが、あるべき方向性ではないかと考えている。

■事務局

- ・「しながわネウボラネットワークの構築」では、「妊娠届出時面接人数」をKPIとしている。
- ・品川区では、出産前からの面接も実施しているので、この時点での面接状況などの情報は、各家庭の問題にどこまで踏み込んでいくべきかの判断にも活用している。

■委員

- ・各施策の進捗や実績には、家庭の平均収入など複合的な変動要因が影響している可能性があると思うが、そうした点についてどのように考えているか。

■事務局

- ・「しながわネウボラネットワーク」は複合的な事業や要因が関係するものとなっている。
- ・大きな目標としては、様々な家庭がある中で、いざという時には頼れる安心感のようなものを品川区に感じて、子どもを産み育ててくれれば意味のあることだと考えている。
- ・複合的な事業について、横断的な指標を設定することや、包括的な調査結果などをKPIとして活用すること等も考え得るが、今のところは、現在取り組んでいる個々の事業の指標を見ながら、施策の本来目的を達成できているかを見ていきたい。

■委員

- ・「訪問数」と「訪問率」では随分、指標のイメージが違ってくる。「訪問数」をKPIに設定した場合は、行政がどれだけ頑張ったかを見せるための指標となる。
- ・この委員会は、事業の効率化等を直接評価するものではなく、事業目的の達成状況を見るものであり、その意味では、本施策のKPIを「訪問率」としていることは適当と考える。

■委員

- ・「子育てがしやすい」、あるいは「住み続けたい」となっているかどうかは、複合的に見ていく必要がある。このため、一つの事業の実績だけを取り上げてKPIを見直しするということは難しいと感じる。

■委員

- ・短期的に KPI の変更は行う段階ではないと考えており、中期的に、2～3 年経って指標の分類や特性が見えてきた段階で、見直しを具体的に検討してはどうかと思う。

■委員

- ・同意見であり、計画や事業の裏にある社会情勢等をきちんと分析する必要があるが、現段階は KPI を変更するタイミングではないと思う。

■委員

- ・KPI に関しては、所管から意見や感想などはあったか。

■事務局

- ・先ほどの「すくすく赤ちゃん訪問」について言えば、「訪問数」は上がっていても、「訪問率」が落ちている等の結果を所管と企画部で共有・分析した上で、それを次年度予算にどう反映させていくかという動きに繋げることができた。総合戦略の評価・検証を通じ、初年度にこうした取り組みができたのは意義があったと考えている。
- ・どのような KPI が望ましいか、アウトカム指標の考え方などは難しい部分であるが、今回のような評価・検証を何年か続けていく中で、検討していきたい。

■委員

- ・「地域における防災訓練の充実」の KPI である「訓練参加人数」について、事務局から、その KPI の定義の中に、町会・自治会等が主体となった個別の防災訓練の参加人数も含めていきたいとの説明があったが、こうした見直しであれば、短期的に見直して良いと考える。

■委員

- ・「国保基本健康診査の受診率」についても、平成 26 年度の基準数値の設定を見直したいとの説明であったので、これは計画策定時の制度設計の問題として、短期的にも修正して良いと考える。

■委員

- ・基本目標 4 の事業について質問したい。「小規模商店街の活力づくり」の KPI である「活動支援件数」について、具体的にどのようなものが含まれているのか。

■事務局

- ・商店街のイベント・販促支援や、商店街単位での管理事務のお手伝いなどである。

■委員

- ・本事業は年間 20 件以上の支援を目標とし、27 年度実績は 47 件でクリアしているが、26 年度の基準数値の 49 件からは少し下がっている。こうした状況はどう捉えているか。

■事務局

- ・商店街として自立していくという観点も考えると、一概に件数が上がれば良いというものでもなく、このあたりの考え方は確かに難しいところである。

■委員

- ・予算執行率は低いが、実績件数が高いということで言えば、効率化された事業とも言える。
- ・20 件以上という指標が適正なのかどうかについては、引き続き考えていただければと思う。

■事務局

- ・目指すものが自立であり、数値が減っていくことが望ましいということが明らかになっていれば、それについても KPI による目標管理をしていく意味がある。

■委員

- ・基本目標 3 の数値目標についてであるが、区内施設への実宿泊者数が日本人、外国人ともに増えている。
- ・国としても、交通インフラや国際化の進展が、地域交流の推進や地域の活性化に繋がることを期待していると思うが、こうした宿泊者数の伸びは、区としてどう捉えているか。

■事務局

- ・実宿泊者数は、前年度比で日本人が約 13%、外国人が約 25%と大きく伸びている。
- ・宿泊施設自体がそんなに増えていない状況を見ると、宿泊者の受入体制についても、今後考えていかななくてはならない。

■委員

- ・宿泊施設のキャパシティの限界もあるので、民泊等を一緒に推進していくことも考えていかなければならない。

■委員

- ・この問題は、「バスターミナルの利用促進」、「シティプロモーションの推進」という国の補助金事業にも関連している。
- ・宿泊体制の問題等は、総合戦略の KPI に直接絡むものではないが、こうした事業との関連で、今後検討していく必要があると考える。

■委員長

- ・その他、ご意見等はあるか。
→ 特になし。
- ・KPI については、個々の施策の性質や内容を更に精査していただき、また、我々の議論も参考にさせていただきながら、中間年度あたりに、大規模でないとしても、一定程度の見直しを検討するということがいかかがか。

→ 異議なし。

- ・所管の意見もよく聞きながら、各事業を進めていただきたい。

8. 今後のスケジュール

■事務局

- ・いただいたご意見を踏まえて、各事業に取り組んでいく。
- ・本委員会のやり取りについては、議事要旨にまとめ、各委員に確認していただいた後に、区ホームページに公開する。
- ・次回（28年度評価）の委員会については、夏から秋頃の開催を想定している。

9. 閉会

■委員長

- ・以上をもって、平成28年度の品川区総合戦略推進委員会を閉会する。

—以 上—